

派遣先所属 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

氏名 栗原 正夫

派遣期間 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発の事故によって放射性ヨウ素が放出され、この放射性ヨウ素の内部被ばくによる健康被害として、子供の甲状腺がんが発生する可能性が、チェルノブイリ原発事故で明らかになっています。

そこで福島県では事故当時 0 歳から 18 歳の福島県民の子供全員、367,685 人を対象に、1 回目の検査である甲状腺超音波検査「先行検査」を実施しました。「先行検査」は平成 27 年 4 月に終了し、対象者の 8 割にあたる約 30 万人が受診しました。

この甲状腺超音波検査は 1 回だけで終わるのではなく、今後も「本格検査」としてこれからも長い期間福島の子供たちの健康を見守る事業です。

甲状腺超音波検査は福島県立医科大学が中心になって進めています。福島県内の約 30 の医療機関と、全国の都道府県に避難している福島県の子供たちのために約 100 の医療機関にも検査を委託、実施してもらっています。

福島県民の子供は、福島県内に居住または避難しているだけではなく県外にも避難していて、平成 27 年 9 月現在、全国に避難されている福島県民の数は大人も含めて 44,387 人で 47 都道府県すべてに避難しています。中でも東京都が一番多く 5,915 人、埼玉県は二番目に多くて 4,804 人です。このため埼玉県に在住の福島の子供たちの受診の機会を増やすために、今年の 9 月には福島県立医大から避難者数の多い加須市とさいたま市に出向いて、出張甲状腺超音波検査を行い、なるべくたくさんの子供が検査を受けられるように努力しています。

私は、福島県立医科大学、放射線医学県民健康管理センターの甲状腺検査室に配属されています。おもな仕事は福島県内外の医療機関から送られてくる検査データのとりまとめです。甲状腺超音波検査の画像を一枚一枚開いて内容の確認をしています。

毎日、コンピューターの画面を見ながらの作業で大変ですが、間違いが無いように気をつけて仕事をしています。

甲状腺検査室には埼玉県から派遣されている私の他に、群馬県から 2 人、新潟県から 2 人、長野県から 1 人も派遣されており、福島県立医科大学の職員と協力しながら日々頑張っています。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

先日、福島県の浜通りにある南相馬市で毎年行われる「相馬野馬追」を見学に車で福島市から南相馬市に行きました。その時に避難指示区域になっている所を通りました。車の通行は出来ませんが、人けの殆んど無い街を見ると、ここに住んでいた人達は今どうしているのだろうかと思ってしまいます。避難指示区域の空き家を狙った空き巣がいるとのニュースを聞くと悲しい気持ちになります。

東日本大震災から4年以上すぎているのに、除染で出た土などが入った大きな袋があちこちに置かれたのがたくさんありました。東京電力福島第一原発事故による放射能汚染の収束にはこれから何十年もかかるだろうと思いました。

避難指示区域に行くとき暗い気持ちになってしまいますが、福島には良い所がたくさんあります。自然が豊かで桜の花の名所は県内中にあり、他にも私が今までに見に行っただけでも、桃、桜草、ひまわり、ばら、コスモス、ひめさゆり、クマガイソウ、そば、などがあります。紅葉の名所も福島市の近くだけでも吾妻山や安達太良山などがあります。ぜひたくさんの方に見に来てほしいです。

下の写真は土湯峠付近の夕焼けです。

